

成候旨、母さよに相咄候へば、玄かられ候故、其儘打過し置候處、此節全く男子ニ成申候旨、當人申候ニ付、當三月中、秀鍛堂よし暇さし出し、又藏方へ連歸り候得共、兩親共、右始末信用いたし兼、娘さと臥り罷在候節、相改見候處、陽根陰囊共に全く出來候故、驚入、又ハ深く歎き、又藏ニ母さよ相談之上、母さよ在所へ相預け候積りに、夫婦相談致候を、異見等差加へ候者も有之候ニ付、母さよ在所へ遣候儀ハ相止め、當月四日娘さとの前髪剃落し、名を文吉と相改、男の姿といたし、渡世向手傳爲致候處、追々右之風聞承り傳へ、酒食に罷越し候者日々多く、此節渡世殊の外賑敷由、中にも娘さと事文吉江近付に相成候者有之、近邊御武家方等へも被相招候由、

一陽根の儀は、陰門の上に相生じ、陰門のふちふくれ陰囊に相變じ、玉も出來候由至て色黒く、いまだ陰門の形ち失不申、ころ柿の様にて陰囊二つ有之様相見へ、毛も澤山に生じ、折々發動いたし候儀も有之由、且兩三年前迄も乳大きく候處、追々小さく相成、此節相形に成り、言舌筋骨共男子の如く相變じ、全く變生男子と申にも有之由に御座候、

右者稀成珍事ニ付、再應風聞取調候處、實事の趣に付、奉申上候、以上、

〔醫心方 二十四〕變女爲男法第四

病源論云、陰陽和調、二氣相感、陽施陰化、是以有娠、而三陰所會、則多生女、妊娠二月、名曰始藏、精成爲胞囊、至於三月、名曰始胎、血不流、象形而變、未有定儀、見物而化、是時男女未分、故未滿三月者、可服藥、方術轉之令生男也、

〔伊呂波字類抄 呂體〕六根。眼、耳、鼻、舌、身、意、

〔下學集 數下〕六根。眼、耳、鼻、舌、身、意、根、是也、

〔古事談 三行〕此上人寫書ハ得六根淨之人也、或時客人來臨對面ノ間、懷中ニテ蚌ヲ取テ捻ケリ、時

ニ聖云、イカニサハ蚌ヲバ捻殺ムトハシ給ゾトテ大ニ悲歎シ給ケリ、客人耻テ退散云々、